


平成31年1月18日

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第7次【緊急】助成金申請書

【団体情報に関すること】

ふりがな			
団体名称	いまからプロジェクト		
代表者職名	代表	ふりがな	かほり ゆんこ
		代表者氏名	 金藤 純子
ふりがな	くらしまし		
団体住所	倉敷市		
電話番号		FAX	
設立年もしくは活動年数	2018年		
スタッフ数	有給スタッフ 1 名・無報酬スタッフ 3 名・ボランティア等 数 名		
団体HP(あれば)	<a href="https://app.imakara-techo.com/">https://app.imakara-techo.com/</a>		
FBページ(あれば)			
CANPAN登録	<input checked="" type="radio"/> なし ・ <input type="radio"/> あり (星 っ)		【団体ID: 1

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	事務局	ふりがな	はんみ まさみ
		担当者氏名	逸見 昌己
郵送物送付先住所	〒 倉敷市		
担当者電話番号		担当者e-Mail	177

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

【申請事業の内容】

<p>事業種類・内容 該当する活動に○をつけてください。</p>	<p>1. 災害支援活動(県内各地) 2. 災害支援・復興活動(真備エリア)</p>
<p>事業名 (もしくは事業概要)</p>	<p>いまからプロジェクト</p>
<p>活動(予定)期間</p>	<p>平成 30 年 8月 19日 ~ 平成 年 月 日</p>
<p>活動(予定)場所</p>	<p>倉敷市真備町</p>
<p>受益者数</p>	<p>直接受益者 約140名 間接受益者 その家族</p>
<p>活動内容 ・支援対象者 (とその関係性) ・実施内容 ・実施体制 など</p>	<p>『いまからプロジェクト』代表者の金藤純子は 西日本豪雨災害発災時に、真備町川辺地区で被災し、自宅のアパートも、両親の住む実家も全壊という大きな被害を受けました。失意と混乱の中、やらなくてはならないことはたくさんあるのに、日々何が起こり、自分が何をしたかの記憶さえ曖昧になる状態でした。</p> <p>その時、出会ったのが、神原咲子教授が 被災者に無料配布している『いまから手帳』でした。『いまから手帳』は 日々の生活の様子、自分や家族の健康状態、生活再建に向けた手続き等を日記のように記入できる画期的な冊子です。この『いまから手帳』に神原教授と共に改良を加え、ページ数や期間を気にすることなく記入を続けられる『いまから手帳 電子版』を製作する事にしました。</p> <p>『いまから手帳 電子版』の特徴 1) 日付が自動的に更新され、その日の気分、自分や家族の体調、その日をどの様に過ごしたか、困り事等の項目を日記を付ける様に、スマホやパソコンで気軽に記録ができます。 写真も簡単に貼付できるので、自分や家族の写真、家の被害状況、再建中の家の写真を日々添付していくことができます。記録や写真を、必要があればいつでも見直すことができます。 医療機関に健康上の相談をする際にも、記録や貼付していた写真を活用することができます。受診後に処方箋や薬の写真を貼付することもできます。</p> <p>2) ペンり情報には、防災関連サイトなどのアドバイスイ覧ページを設け、自治体からの広報誌や被災者向けの情報を瞬時にチェックできる様にしています。被災者向けの情報サイト『まびケア』と連動し、炊き出しや物資配布、法律相談の最新日程を載せた便利なカレンダーもついています。 特に、みなし仮設で生活されている方々は、もといた地区から離れて暮らしているの、真備で行われる催し物や炊き出し、物資配布などの行事に参加することで、孤立防止にもなると思っています。『いまから手帳 電子版』で、行事に参加するための最新情報を簡単に得られることができます。</p> <p>『いまからプロジェクト』のこれからの活動 1) 被災者の中には、情報を得るために、スマホに買い替え、SNSを使うようになった方もたくさんいらっしゃいます。『いまから手帳 電子版』をできるだけたくさんの方に使っていただける様に、これからも改良を加え、極力使いやすいものにしようとしています。スマホやパソコンを持っている方は誰でも使える様にユーザーフレンドリーにしようとしています。</p> <p>2) スマホやパソコンで『いまから手帳 電子版』が使えない方のためのサポート 被災から約6ヶ月が経ち、情報が自分で探せる方と、そうでない方の差が顕著になっている様です。情報が十分に得られない"情報弱者"を少なくするためにも、できるだけたくさんの方に、この『いまから手帳 電子版』を使っていただきたいです。被災者のサポート団体とも協力して、『いまから手帳 電子版』の使い方教室やワークショップを行っていきます。 この活動を通して、生活再建、防災に対する情報リテラシーが高まることが期待できると思われます。</p>

実施予算 (収入、支出の合計額をあわせてください)

1. 本事業の収入